

つくば市春日における屋外自動販売機の分布—緊急時利活用の観点から—

押見 隆弘 (博士前期課程地球科学専攻)

1. 目的: 緊急時の利活用の観点から、屋外自動販売機を対象に調査・分析し、その地域差と要因を明らかにすることを目的とする。

2. 対象地域: 対象地域は、茨城県つくば市春日地域内（筑波大春日キャンパス内を除く）である。北部（春日3・4）は筑波大生が多い一方、南部（春日1・2）は戸建住居や事業所が目立つ。自販機は80台設置されており、うち79台で飲料が販売されている。

3. 研究手法: ESRI社の「Survey123」を用いて、屋外自販機のポイントを記録し、同時に自販機の属性情報（商品・設置環境・メーカー・飲料水価格・住所表示・IC対応・災害時遠隔対応）を入力する。ArcGISを用い、地域内メッシュ人口と収集した属性情報をもとに、地域差とその要因を分析する。

4. 結果・考察: IC対応は2台のみ、災害時遠隔操作に対応したものはなかった。飲料水の最低価格は、単身20代世帯の少ない春日1丁目付近で高く、一方春日3・4丁目

集合住宅より10円高い。学割のようなものが地域内で適用され、また店舗では自店舗商品を売り上げるため高価であると推測される。

自販機は、徒歩2分圏でほぼ地域内をカバーできている一方、住所表示のものに限ると春日2丁目などを中心に空白地帯が生じる。住所表示のものは全体の約1/3だが、販売メーカーごとに表示・非表示が大きく二分されている状況である。生じた空白地帯に自販機は設置されている。企業ごとに意識を高め、住所シールを貼ることで簡単に解消され、災害時の位置情報伝達と救急活動の迅速化を可能にすると思われる。

表 1 住所表示有無とメーカー

メーカー	総数	有	無	割合
コカ・コーラ	18	0	18	0.00
サントリー	12	6	6	0.50
アサヒ飲料	10	7	3	0.70
DyDo	10	5	5	0.50
麒麟ビバレッジ	10	3	7	0.30
伊藤園	9	3	6	0.33
pokka sapporo	5	2	3	0.40

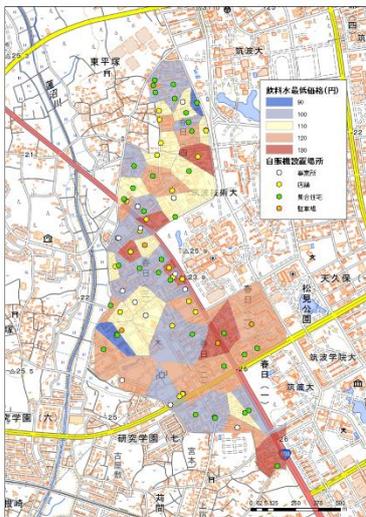


図 1 最近隣自販機と価格

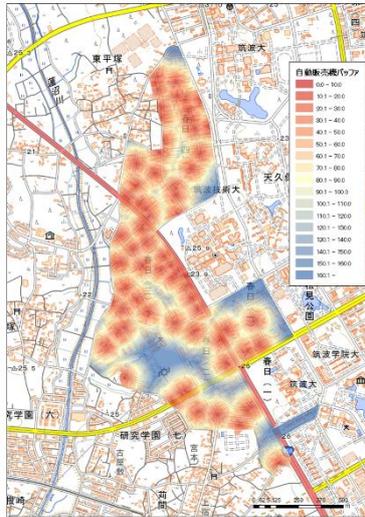


図 2 自販機徒歩2分圏

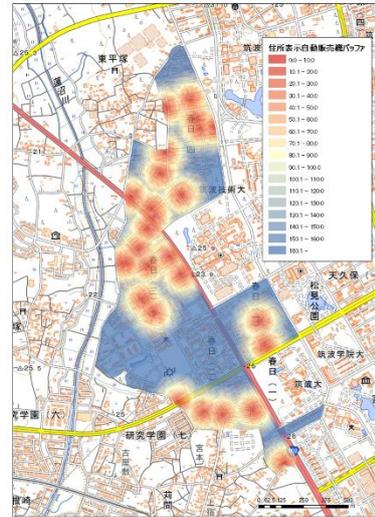


図 3 住所表示自販機徒歩2分圏